

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294202078		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里-向敷地(山側ユニット)		
所在地	静岡県静岡市駿河区向敷地1291-5		
自己評価作成日	令和2年10月16日	評価結果市町村受理日	令和3年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2294202078-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、弊社5施設ある中で唯一の平屋建ての施設となっており、ユニットを仕切っている稼働式の壁を動かす事により広い空間を作る事ができます。今後は市内にある施設とも協力イベントを行っていく方針です。立地条件もよく、少し歩けば向敷地公園があり、散歩のコースになったり、お弁当を持ちミニピクニックとしても利用させてもらっています。公園への行き道が山になっており四季折々の花や果物がなっており入居者様も「キレイね～」や「アレ(夏みかん)美味しそうだ！」等、肌感覚で季節を感じられます。また、敷地内を近隣の小学生が通る為入居者様も子供たちを見かけると手を振ったり挨拶をされる関係性が出来つつあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新卒採用が励行されるなか毎年新人配置があり、真面目で素直な若者が4名勤務しています。利用者は「孫と同じだよ」と愛情を示してくださり、関係がつくりやすいことを強みに先輩職員の指導の下、日々成長を見せています。事業所としては、「自らやりたくなるような環境づくり」に努めており、特に洗濯たみや食器拭きなどの生活リハビリは意識的に増やし、2ユニット目を再構築している段階です。広い駐車場では車いすに座る女性利用者の視線の高さにまでかんだ若い女性職員が子育ての悩みを相談していて、その和やかな様子と職員の姿勢からは、事業所の指導力の高さが覗えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に理念を唱和し職員全員に周知されています。入社時期もバラバラで人によっては恥づかしさも見られますが、毎日続けることで腹落ちをし、同じ方向を見る事ができより質の高い介護の実現に役立っている。	新卒採用が励行されているため新人配置が多いものの、法人本部では年4回の研修でフォロー浸透させています。「して差し上げる」のではなく、「自らやりたくなるような環境づくり」に努めており、特に洗濯たみや食器拭きなどの生活リハビリは意識的に増やしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所時より、近隣の小学校との交流がありましたが今年度についてはコロナ流行の為、基本家族(県内在住)のみの来訪とさせて頂いている。	「幼稚園、小学校、高校など児童、生徒の社会資源を活かそう」という考えの下、動きだした矢先にコロナ禍となり、特段の進捗はありません。建物のオーナーが隣近所の一員として植栽や、事業所周辺の草取りに尽力くださっていることが支えとなっています。	認知症サポーター養成講座や夏休み工作教室など、地域に貢献できる企画をこの機会に準備していくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の皆様には、顔を合わせた際には、挨拶・お話の中で認知症について理解を深めて頂くように説明をさせて頂いている。また、テレビの音量やゴミの投げ捨て等によりご迷惑をおかけしている事も謝罪している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催を予定し、各協力機関にアナウンスさせて頂いたが、コロナ渦の為中止となってしまっている。報告予定だった内容を纏め議事録の作成ご家族を始め地域包括・介護保険課・自治会長に郵送させて頂いている。	奇数月で隔月開催をおこなってきた運営推進会議は、本年度は2ヶ月分の活動内容をまとめて書面開催の形をとっています。作成した書面は、市役所、地域包括支援センターをはじめ運営推進会議メンバーに届けています。	活動内容は届けていますが、メンバーから意見がもらえるような仕組み(FAXシートやはがき)があると、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課・地域包括には、毎回、運営推進会議の案内・議事録・身体拘束廃止委員会の議事録を提出させて頂いている。	地域包括支援センターからは随時、問い合わせ並びに情報提供があります。また生活保護受給者を上限2名まで受入れる協力体制にあり、入居希望は生活支援課のケースワーカーと話し合いを持っています。またでんでん体操はレクリエーションで実施しています。	介護相談員は来所していましたが(現在は休止)、コロナ明けには「静岡市！元気活き活きシニアサポーター制度」への登録があることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所から「身体拘束0宣言」をし現在まで身体拘束をしたことが無い。5月11日には身体拘束についての内部研修を行い、立ち止まり・振り返りの場を設けている。	身体拘束等適正化委員会はこれまでは運営推進会議の中で実施して外部者の意見ももらえましたが、現在は内部でおこなっています。新卒2名、2年目2名総計4名のフレッシュな職員もあり、今後ロールプレイングなどを織り交ぜて、初心に戻って学んでいきたいとしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じく、5月11日に職員に内部研修を実施している。 職員同士でも、虐待に繋がる行為があった際には、管理者へ報告する様に伝えるように話し場によっては、本部の間も可能と指導をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開所時より、携わりが無い為、今後その様な方が入居となった場合には、関係各位への連絡・相談をするとともに本部・同系列の与一・清水とも連携をしスムーズな対応が出来る様にしていく。 情報共有が出来るようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談があった場合、施設見学を必ずして頂き相談・確認も常時受け付けをしている。 契約に際しては、ご本人様・ご家族様に分かり易く説明をし、且つ質問や疑問があればその都度お答えしている。 ご理解の上で入居契約を出来るように徹している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルスの影響により、ご家族様にも面会について自粛をお願いしている。ご家族様に任意でメールを登録して頂き面会できない分写真や動画付きで近況報告をさせて頂いた。 ご家族様からも好評で今後もメールを上手く活用していきたいと思う。	本部制作の「たみの里通信」とともに、写真や七夕行事の短冊で近況を伝えてきましたが、先月からは個々の1ヶ月の様子の便りを居室担当がしたためるようになっていきます。直接お褒めの言葉も入るほか、今回の家族アンケートでも良い点をあげてもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼・各ユニットでの申し送り等入居者様の情報共有がしっかりとできており、様々な角度から提案や改善について意見がでてくる。 また、月1の定例会ではユニット関係ない場という事もあり色々な意見が出てくる。	職員が「言いやすい」「聞きやすい」雰囲気をつくることを管理者、リーダーが心がけており、時短の職員に配慮して休憩のとり方等の改善が職員からはあがっています。また、相談役(プラス本部職員)にダイレクトにコンタクトがとれるようメンタルフォローの体制も敷かれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、表彰式が実施され職員個人の実績・勤務状況を評価し、やりがい・向上心の維持・向上を持てる環境作りに会社全体で努めている。また、年に2回の自己評価・現場評価・テストを実施し昇給等の参考にしている。27年度よりキャリアパス制度を導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会内で時間を設け、勉強会を実施している。 新卒者には、本部研修があり、今年度より新卒者以外においても希望があれば本部研修に参加が出来る様になった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この地域で開催されている、長田地域密着連絡会に参加させて頂いている。その際には、人材確保・人材教育、避難等の情報交換の場として利用させて頂いた。コロナの為現在は参加できていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の時点より、入居者様のニーズに耳を傾け入居者様・ご家族様のご希望に沿うように考慮している。 また入居後も日中・夜間と時間経過の中での言動を逃さず、職員間で共有し入居者様に安心・信頼できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の際から、ご家族の悩み事、困り事、要望等、現在ご家族が抱えている事を相談・見学・申し込みと場面を通じてお聞きし関係構築に努めている。 また、入居後もご本人様の様子の報告、相談をし更なる信頼関係努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み後、ご本人様との面談・アセスメントを行いニーズ喚起とともに、必要な支援の状況把握を行っている。 また、ご本人に関わりの有る、居宅・施設ケアマネ、介護事業所からの情報提供頂き対応の参考としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症を患っているとはいえ、職員よりも年長者であることは変わらず、それぞれの人生の中の経験値を活かして頂き、今出来る事・興味のあることを1つの役割にし、暮らしを共にしている。また、男性が初めてやったよ！という洗濯たみなど新たな事にも挑戦する事も多々ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の、入居者様への想いをしっかりとくみ取り形にして行く。その過程の中で、ご家族様との連絡・情報共有によりより良い関係構築が出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状としては、コロナウイルス予防の観点から、静岡県の指針に合せ、ご家族様以外の面会をご遠慮して頂いている。コロナ以前は、県外等に生まれているお孫さんや、ご友人の来客も多くあった。この状況が収まれば以前同様に面会来て頂けるようお伝えしている。面会時間の制限も無い。	ラインワークス(アプリ)で写真閲覧できるようになり、6家族がリアルタイムで情報共有できています。窓越しの逢瀬から、状況みつ「談話室(検温、消毒)」で会えるようになり、外気浴を兼ねて玄関先のベンチで談笑する人もいて、安全を図りつつ臨機に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	川側が開所したばかりだが、何かの用で山・川と行き来することがあり少しづつではあるが交流ができてきている。また、既存の山側については入居者様同士、助け合う姿もみられている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後、次のサービスへのスムーズな移行や、関係各所への繋ぎ、またご家族様へのフォローアップ等必要なサービスの提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時から、ご本人様・ご家族様から、生活歴・趣味嗜好を始め聞き逃しの無い様に務めながらも訪問させて頂いた、家やお部屋等の写真や家具などの目から入る情報も施設ケアのヒントにしている。	入居にあたっては家族(施設からの入居の場合は相談員)から聞き取りをおこない、アセスメントシートに落とし込んでいます。「手踊りが好きな利用者は、音頭を流すとすかさず披露くださり、表情が若返る」といったことを職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅支援・施設等サービス利用されていた方については、担当のケアマネから情報提供を受けるとともにご本人・ご家族様からも聴き取りをし、好きな事・大事にしている事を第一にケアに取り込み支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝中と一人一人の様子を事細かく観察し、記録する。その積み重ねから、各々の出来る事・苦手な事・どうしたらできるのか?等の抽出に役立て、申し送り・個人の申し送りノート等を使い情報共有に活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会時にカンファレンスの時間をもうけており、入居者様ご家族様の意向・要望を取り入れている。また、その際には、職員から“あの時…”や“これやったら…”等の意見が出ており、そういった意見も介護計画に書に反映してる。	職員に「どちらがわかりやすいか」確認したうえで、サービス内容は文章化せず箇条書きにしていることからは、現場における実践力への配慮が計画作成担当者にあることが受けとめられます。また、利用者及び家族の意向は手書きで書いてもらっていて、気持ちが伝わります。	担当者は介護職員のみとならないよう、家族やボランティアのほか、社会資源も入ることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況に関しては、経過記録・バイタル表に記入、記録している。また、1日の中で気づいた点、変更・注意点等に関しては1日3回ある職員間の申し送り時に共有しノートに記入し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・ご家族のニーズに対応し受診・買い物等その都度柔軟に対応し支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響により、地域の小学校との交流が無くなってしまったが、今後時世が落ち着いた際には再度の交流が持てるように努めていく。また、この地域には、幼稚園や高校・交流センター等も数多く点在している。その様な場も発掘し今後取り入れていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護が週に1回、往診が月に2回入っており状態変化時には、かかりつけ医に連絡・相談・指示受けが出来る体制ができています。また、その都度ご家族様にも報告させて頂いており、検査・入院等の対応に関してもスムーズに移行・対応が出来ています。	1名は大好きな従来のかかりつけ医を、そのほかは協力医の訪問診療(月2回)を受けており、週1回契約の訪問看護事業所には小さなことから大きいことまで相談にのってもらえ、常に助けられています。立ち合い者は管理者とリーダーで、申し送りと記録を確かなものとしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日午前・午後のバイタル測定をベースに、表情・熱感・動き等の異常にいち早く気づき、必要に応じて訪問看護、かかりつけ医に相談し指示を仰いでいる。また、特段の変化が無い方も週1回の訪問看護時に相談が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況把握の為、病棟への電話にて情報提供をして頂いたり、ご家族様へ連絡を取らせて頂き状況把握をして退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様へ「看取り介護および医療連携に関する指針」を説明している。入居後に重度化されてしまった入居者様に対しても、かかりつけ医とご家族様と相談の場を設け職員全体で状態把握、情報の共有をし看取り介護を行っている。	ターミナル期に入っても「皆に囲まれた生活を」とし、流しソーメンの写真を見て「寝たきりでも参加させてもらってありがたい」と家族からも感謝され、またコロナ禍の中でも、市内在住家族であることを前提に本部に許可をとり、毎日20分程度の面会(居室)を実現させています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が法人内で、基礎研修を受けている。かかりつけ医・訪看からも応急手当等行う際には指示、指導をもらえる環境になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の防災訓練を実施しており、より人員の少ない環境下の夜間を想定し実施している。また、今年度内には、状況が許されれば消防署員立ち合いの元防災訓練を実施していく。町内会長からは、災害時は避難場所まで距離があり動かし助けを待つ方が良いのではと助言を頂いている。	「避難しないほうがいい場所」と判断する一方で、今後も要検討案件と位置づけ、確認してゆくこととしています。年3回の実施を年間計画に組み込み、すべて夜間想定を取入れています。また発電機も備え、毎月稼働させて状態を確かめ、非常食も1週間ほど備えています。	新人には丁寧に指導くださってはいませんが、採用時のオリエンテーションでは通報手順だけは説明しておくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し入居者様の生活歴を含め、声掛けや行動に注意し支援をしている。不適切な言葉かけには、管理職が注意・指導している。全職員法人内研修にて接遇について学びおもてなしとお客様第一主義を意識している。	「名字で呼ぶように」との法人指導を遂行し、「全般的に職員の課題はない」と管理者は受けとめています。脱衣スペースにトイレがあることから、かち合う場面もあり、ハード面を職員がフォローする必要がありますが生じていますが、現状はなんとかクリアしています。	脱衣スペースにはトイレとの仕切りカーテンなど配することを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月に何回かある「お楽しみメニュー」や今年も行けていないが外出先等入居者様に順番に希望を聞き決定している。コロナ以前については、日用品を購入の際には、ご本人と一緒に行き選んで頂いていた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間の流れはあるが、入居者様個々のペースに合わせて支援するように努めている。「お客様第一主義」の元、要望・希望に沿いゆったりと暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様に服を選んで頂いたり、毎朝の整容も入居者様に聞き行っている。また、衣替え等でご家族様と話す際に、どういった服が良いかのアドバイスもさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会やお楽しみメニューを入居者様に決めて頂く事も多々あり、食前・食後は、テーブル拭きを行ってくれる方、食器やお盆を拭いてくれる方と出来る事を行ってもらっている。	「うなぎの日」が毎月あり、10月から4月の期間にはお刺身も提供されています。リクエストに応じる日も予め用意され、おせち料理などの行事食、お彼岸のおはぎなど時節を感じるおやつの日もあって、家族からも「うらやましい」と声が入っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量共に記録している。職員もその方に合った食事形態をしっかり把握している。状態が変化した際にも、管理職に直ぐに食事形態の相談をしてくれる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助を実施している。就寝時には、義歯洗浄・消毒をし保管している。ご家族様にも歯・義歯の状態を報告し必要に応じて訪問歯科医に往診を依頼している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し・把握に務めている。トイレで排泄できるように誘導をしている。現在、布パンツで過ごしている方がリハビリ等にならない様に努め、リハビリの方が不快な思いをしなくてもいい様にと職員が支援している。	排泄チェック表からパターンを把握したうえで、パットなど消耗品の使い方や頻度も検討し、本人の気持ち良さとともに、家族の経済的負担を考慮しています。汚物を隠してしまう人は案内外かりやすく隠してくださるため、職員が都度確認して衛生面に注視しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供している。バイタルチェック表を用いて、排便状況を確認し、担当医からの指示にて屯用薬を用いている。トイレ誘導や水分の促しをしなるべく早期に解消できる環境を設定している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴を基本としている。排泄等により汚れてしまった場合には、その限りとせず入浴して頂いている。入浴剤を数種類用意し、入浴を楽しんでもらっている。その日の体調に応じてシャワー浴や足浴対応もしている。	現在は2ユニット目が再開したばかりで定員に達していないこともあって、通常週2回のところ3回も可能となっています。好みの温度、長風呂が好き、会話を愉しみたいなどその人のニーズに応え、入浴のない日も陰洗と足浴をおこない、また下着も替えて、清潔を担保しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ交換も毎週行い、その方の生活習慣や体調に応じて居室にて休んでいただいている。持ち込みで加湿器を使用している方の水の確認や、タオルを掛ける等も行っている。巡回の都度、温度や湿度確認もし安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報が確認できるように、個人ごと薬の情報をファイリングしている。往診日に薬剤変更等があった場合、申し送りと経過記録・申し送りノートに送りと記入をする事で見落としが無い様にしている。薬剤変更後は、特に気を配り経過記録に詳細な記入をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話から、入居者様の得意とする事・興味がありそうな事を職員が聴きとり、無理の無い範囲でお手伝いや、レクに取り組んでもらっている。現役時代は、裁縫の先生をやっていた方や、折り紙を見て意欲にかられ誰よりも真剣に取り組む男性等、職員が入居者様から刺激を貰っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩(夏場は避け)や、駐車場を利用しての日光浴を行っている。コロナ以前には、外出・外食レクを行っていた。現在の状況を鑑み好きな物を頼むよう出前レクをやってほしいと意見がでている。	コロナ禍となる前には月1回の外食、買い出しに誘うなどができていましたが、現在は「降りないドライブ」をまったくありません。今後は「降りないドライブ」を実施する予定です。散歩は周辺の公園までとか目標を定めておこない、玄関前の外気浴も定石です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、入居者様が金銭を持つことはしていないが、入居者様のご希望によってはご家族に相談し対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と、連絡を定期的にとっている入居者様もいらっしゃる。 コロナの為、面会が自粛となってしまった分、写真・動画にてご家族様に管理者からメールにてご報告をし、大変喜ばれている。 また、電話連絡の際にも、今迄以上に近況報告に気を配りご要望を聴くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が落ち着いて生活できるように、綺麗な生活環境を整えている。 散歩に出た際に敷地に生えている花を取ってきてたり、レクにて季節感のある作品を制作する等し、展示している。	起床時には窓を開けることが習慣だったため、換気はコロナ禍だからということではなく、特段変わっていませんが、日中の掃除と消毒は、夜勤帯もおこなうようになっていました。共用空間には以前の趣味や作品が連なり、また壁画は季節毎の花が模され賑やかです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごす事の多いホールのテーブルの配置は入居者様の状況に応じて変更をしている。仲のいい人同士や、窓が近い方がいい方、ソファで過ごす方と、皆様思い思いに過ごされており、その間に職員が入るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた、馴染みのあるタンスや、大切な方を祀ってある仏壇等を持ち込んで頂いている。 また、ご家族の写真や飾っていただける方もおり、危険の無い範囲で居心地よく過ごされている。	仏壇や名入りの家族写真、テレビが持ち込まれています。「そのままの環境が再現されることが本人のため…」とお願ひしたところ、家族が真摯に応じてくださり、小さなテーブルと椅子のセットなど本人の馴染みのものが並び、安寧に包まれている居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・洗面台には、開所時より字が書かれており、各居室には花のイラストが描かれご本人が迷わないように配慮している。 職員も過剰に介護しすぎないように心掛け、自身で出来る事は自身で行って頂き、生活リハも意識し対応している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294202078		
法人名	特定非営利活動法人シンセア		
事業所名	グループホームたみの里一向敷地 (川側)		
所在地	静岡県駿河区向敷地1291-5		
自己評価作成日	令和2年10月11日	評価結果市町村受理日	令和3年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2294202078-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、弊社5施設ある中で唯一の平屋建ての施設となっており、ユニットを仕切っている稼働式の壁を動かす事により広い空間を作る事ができます。今後は市内にある施設とも協力イベントを行っていく方針です。立地条件もよく、少し歩けば向敷地公園があり、散歩のコースになり近隣の方々との交流も図れ地域密着型として、稼働出来るかと思えます。又、各居室も入居者様の安全面に配慮されており低床ベッドを配置し備え付けのカーテンも防災加工されており防災の面でも充実されています。浴槽も可動式で入居者様の身体に合せて快適、且つ安全に入浴をして頂いています。新型コロナウイルスで外出や外食も、ままならない状況が続いていますが、中でも楽しんで頂ける事を目標に掲げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新卒採用が励行されるなか毎年新人配置があり、真面目で素直な若者が4名勤務しています。利用者は「孫と同じだよ」と愛情を示してください、関係がつくりやすいことを強みに先輩職員の指導の下、日々成長を見せています。事業所としては、「自らやりたくなるような環境づくり」に努めており、特に洗濯たみや食器拭きなどの生活リハビリは意識的に増やし、2ユニット目を再構築している段階です。広い駐車場では車いすに座る女性利用者の目線の高さにまでかんだ若い女性職員が子育ての悩みを相談していて、その和やかな様子職員との姿勢からは、事業所の指導力の高さが覗えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	川側は開設して3か月弱ですが毎朝2ユニット合同での申し送り時に経営理念の「生き生き生きる」を唱和及び職員から「good&new」を発表して貰い朝から楽しい気持ちでケアに取り組める様にしています。又、方向性を統一し質の高いケアの実現に役立てています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年ですと近所を散歩中にご挨拶から会話に繋げたり地域の催し等に参加して地域と密接な繋がりが持てる様にしていますがコロナウイルスへの感染予防から外出や来客は遠慮して頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設して日も浅い事・コロナで地域の方々へ認知症に関する理解や支援方法等は向けられていないが現況でも出来る事を模索しながら発信していきたいと思えます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催を予定し、各協力機関にアナウンスさせて頂いたが、コロナ渦の為中止となってしまっています。。報告予定だった内容を纏め議事録を作成し、ご家族を始め地域包括・介護保険課・自治会長に郵送させて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課・地域包括には運営推進会議の案内と議事録・身体拘束廃止委員会の議事録を提出しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ玄関の施錠はせず自由に出入り出来る様にしており今迄に身体拘束を行った事例は在りません。経験の浅いスタッフも多い事から今後、研修等、勉強会に取り組みたいです。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、5月・11月に内部研修会を行い理解を深め防止に向けケアに取り組む不適切行為が発生した時は管理者に報告し話し合いの場を設け再発防止に努めます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を使われている入居者様もいらっしやらない事から活用できる支援はされていないが、月に一度の定例会を使い今後の取り組みにして行きます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談を頂いた時は必ず施設見学をして頂き相談やお困り事を伺い気持ちの共有を計り又、入居者様・ご家族様には十分、説明し質問や疑問・不安点を伺い不安軽減を図り理解・納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でご家族様の面会はままならないが電話や月1回のお便りで情報を発信し特に電話では日頃の様子をお伝えしながら、ご家族様の意見や要望を伺い信頼関係の構築に努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会の際に意見交換の機会を設け日常業務の中でも職員とコミュニケーションを取り意見等、話しやすい環境を整えています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の年一回の表彰では職員個人の実績・勤務状況を評価し遣り甲斐や向上心を持ってケアに取り組める環境作りをしています。年2回の自己評価・現場評価テストを行い昇給などの参考にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会内で時間を設け、勉強会を実施し知識を深めています。又、今年度より新卒者3年以内以外の職員においても本部研修に参加が出来る様になった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルスの影響前は長田地域密着連絡会に参加させて頂きお互い意見交換して情報共有を計りサービスの質の向上に取り組んでおり運営推進会議においても意見交換をしていました。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談・申し込みを頂いた時から要望や困り事を伺い希望に添える様に考慮し寂しさや不安にならない様に24時間問わず職員が出来る限り寄り添い関わりを持ち安心・安全に生活出来る環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に今迄の生活環境や身体状況、及びご家族様の困り事も伺い問題点や要望に耳を傾け信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み後ご本人様と面談・アセスメントを行い必要とする支援の把握をしています。又、居宅の担当者や施設のケアマネ・介護事業者から情報を頂き初回ケアプランに落とし対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊敬の念を持ち個々の好む事・出来る事を模索し生活の中に活かし役割を持つ事で生きがいに繋げられる様に生活を共にしています。食器拭きや洗濯物量など、一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様・ご本人様の想いを尊重し真摯に受け止め絆を大切にしより良い関係が継続出来る様に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナの予防から静岡県の指針に準じご家族様以外の面会のご遠慮頂いています。以前は制限なく面会に来て頂ける様にお伝えし場所の提供もしていました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	山・川関係なく交流を計り又、入居者同士の会話の橋渡しをし良好な関係の構築に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設したばかりでサービス利用が終了された方ではありませんが、その様な場合は必要に応じた対応をさせて頂き相談や支援に努めたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報収集に合せ日常生活の中で入居者様の生活歴・趣味嗜好、又は希望や意向を把握し思いを言葉に出来ない入居者様のアドボガシーとして努め思いを汲み取る様にしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族様から聴き取りをし馴染みの生活・暮らし方や居宅・施設サービスを利用されていた方はケアマネや介護事業者から情報を提供して頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から個々の心身状態を観察・記録に残す事で出来る事・好きな事等、申し送りやノートを活用し情報共有をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・ご家族様の要望を職員間で共有し毎月の定例会でモニタリングを行い日常の心身状態を意見交換しご本人・ご家族の想いも落とし介護計画書に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や日誌に日常生活の様子を記録し、その中で気づいた事柄に関しては職員間の申し送りで随時共有しプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様や本人からの相談や依頼内容・ニーズに合わせ受診の送迎や買い物代行等、柔軟な支援・サービスに取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ予防から自粛する事は多々、有りますがその中でも今、出来る事として駐車場でひなたぼっこ等、少しでも屋外で過ごせる工夫をしています。今後はドライブも行って行きたいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係構築しながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の往診が月2回あり入居時に同意を得て受けている。状態により緊急受診の支援や協力医への相談をし医療連携の強化を図りご家族様にも報告・相談させて頂き早期に適切な治療へと繋げています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問し健康管理に努めており介護職では出来ない白癬などの爪切りや腹音等の確認をして頂き早期発見や安全面でも考慮しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現況、入院は有りませんが退院後に入居される場合は病院に出向き主治医・看護師とムンテラを行い入居後の不安軽減に繋がっています。又、入居後1~2回は受診対応し状態を十分に把握してから協力医と連携を取り移行しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り及び医療連携に関する指針」を作成し入居時にご家族様に説明しています。重度化した場合はその都度、ご家族様や協力医と話し合い共に1つのチームとして支援に取り組んでいきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員全員、法人内で基礎研修を受けてお急変・事故発生時の対応についてもフローチャートにて確認。及び看護師や協力医からの指示・指導も頂いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の消防訓練を実施していますが川側がオープンしてからは実施されていないので11月に予定している訓練には入居者様も含め訓練に臨みたいと思います。又、消防署立ち合い訓練についてはコロナ禍の為、検討し慎重に臨みます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重し言動には十分、注意を払っています。不適切な言動が見られた時は職員全員がお互いに声を掛け合い注意しあっています。接遇面でも、お客様本位の対応を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から嗜好を伺い参考にしたりお誕生日や行事食等は入居者様に相談して決めています。外出が可能になったら行き先や何が召し上がりたいか等も自己決定出来る場面を提供していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度、1日の流れは決まっているが、その中でも押し花を楽しんだり電子オルガンに合せ唱を唄ったりと個々の楽しみ方も尊重しサービスに取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	明日の洋服を就寝時に一緒に選んだり起床時に鏡の前で髪を整えるなど、又、2ヶ月に1度訪問理美容にて、お好きな髪形にカットして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事食のメニュー等、入居者様と相談して決めたり食器拭きやお盆ふき等、スタッフと一緒に会話を楽しみながら実施しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量等は記録に残し個々に合った食事を提供しています。又、飲み物は常時、数種類用意し好みに合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・必要に応じた介助を実施しています。磨かれた後はスタッフが確認し磨き残しがあった場合は仕上げ磨きをしており就寝時は義歯を消毒液に「浸し消毒」しています。又、食前は口腔体操を実施し口腔機能の向上を図っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録し個々の排泄パターンを把握しトイレの声かけ・誘導をしています。夜間帯は開眼時に声かけにてトイレにご案内しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し日々のメニューも水溶性植物繊維の食材を利用する等して工夫をしています。又、食後は必ずトイレにご案内し自然排便を促しており体操や歩行運動を取り入れ毎朝の申し送りで排便状況を伝え個々に応じた便秘薬で排便コントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回の入浴を基本としているが排泄等で汚染した場合等、状況に応じた対応をしています。又、入浴日以外は足浴・陰洗を行い清潔保持や精神安定にも繋げています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ交換も週に1~2回、行い生活習慣や体調に応じ休んで頂いています。居室の温度や湿度も快適に休んで頂ける様に調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに綴じ、いつでも確認出来る様にしています。往診時に薬剤変更があった場合、申し送りと経過記録・申し送りノートに落とし周知徹底しています。又、症状に変化が現れた時は医師・薬剤師に相談し、その都度、対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から嗜好を聞き取り、どの様な提供の仕方が良いか検討しながら楽しみや、役割を持ち唱・体操・押し花等、趣味を楽しむ時間を提供し張りの有る生活が送れる様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はままならないが駐車場で日光浴を楽しんでいます。又、これからはドライブにも出かけ気分転換に繋げていきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者様が金銭を持つ事はしていませんが将来的には職員と一緒に買い物に出かけ、好きな物の買い物を楽しんで頂きたいと思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればご家族様に職員が電話をかけお話しが出来る支援は整えています。又、コロナ禍の影響で面会がままならないのでお電話や月1回のお便りで近況を報告しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には作品を壁に取り付け、スタッフと一緒に作成したコスモス等を飾り季節感をだしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、過ごすテーブルの配置・席の配置は状況に応じ変える時もあります。又、ソファで過ごされる方もおり皆様、思い・想いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使っていた馴染みの有る物を使って頂く様に依頼しご本人様が居心地よく感じて頂ける様にし又、危険の無い様に環境整備にも注意を払っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置。トイレを示す表示や居室前には名前プレートの設置し過剰介護にならない様に日常の中で生活リハビリを取り入れ自立して生活に少しでも繋げられる様に支援・工夫している。		